



葉は単葉で長楕円形、先がとがり、有柄。

食

モロヘイヤ

草丈 2 m に達し、葉は単葉で互生し、長楕円形で先端がとがる。

葉のつけ根部分左右に 1 本ずつ角状突起がある。

エジプトなど中近東地域で食される。

日本でも 1980 年代から食べられるようになった。

種に毒があるので要注意。



アメリカチョウセンアサガオ



ヨウシュチョウセンアサガオ

毒 チョウセンアサガオ

草丈 1.5 m に達し、葉は波状歯縁で卵型、夏に葉のつけ根に花をつけ、花の形状は漏斗状で、色は淡紫色から白色である。

果実は楕円形で長いトゲが密生し、熟すると中に黒色柱状の種子をたくさんもつ。また、全体に特有の臭気をもつ。

この植物を触った手で目をこすると瞳孔が散大し、まぶしくて物が見えなくなる。

有毒部位：全草、特に種や根

有毒成分：アトロピン、スコポラミン、ヒョスチアミン

中毒症状：血圧・脈拍の上昇、瞳孔散大、
興奮状態→麻痺状態

※平成 12 年に札幌市内でチョウセンアサガオ（毒）とモロヘイヤの誤食による食中毒事故が発生した。